

## FortiGate-500 の LED 表示

LED	状態	説明
電源	グリーン	FortiGate-500 の電源がオンになっています。
	オフ	FortiGate-500 の電源がオフになっています。
ステータス	グリーン	FortiGate-500 は正常に作動しています。
	オフ	FortiGate-500 の電源がオフになっています。
内部外部 DMZ HA1 ~ 8	黄色	正しいケーブルが使用され、接続機器の電源がオンになっています。
	黄色点滅	トラフィック中です。
	グリーン	インタフェースが 100 Mbps で接続されています。
	オフ	接続が確立されていません。

## 工場出荷時設定

NAT/ルートモード IP アドレス	トランスパレントモード IP アドレス	管理者用アカウント設定														
インタフェース IP <table border="1"> <tr><td>内部</td><td>192.168.1.99</td></tr> <tr><td>外部</td><td>192.168.100.99</td></tr> <tr><td>DMZ</td><td>10.10.10.1</td></tr> <tr><td>HA</td><td>0.0.0.0</td></tr> <tr><td>1~8</td><td>0.0.0.0</td></tr> </table>	内部	192.168.1.99	外部	192.168.100.99	DMZ	10.10.10.1	HA	0.0.0.0	1~8	0.0.0.0	インタフェース IP <table border="1"> <tr><td>管理用IP</td><td>10.10.10.1</td></tr> </table>	管理用IP	10.10.10.1	ユーザー名 パスワード <table border="1"> <tr><td>admin</td><td>(なし)</td></tr> </table>	admin	(なし)
内部	192.168.1.99															
外部	192.168.100.99															
DMZ	10.10.10.1															
HA	0.0.0.0															
1~8	0.0.0.0															
管理用IP	10.10.10.1															
admin	(なし)															

## FORTINET FortiGate-500



# クイックスタート ガイド

© Copyright 2004 Fortinet Incorporated. All rights reserved.

**商標**  
本書記載の製品は、各種利権の所有する商標または登録商標です。

**準拠規格**  
FCC Class A Part 15 CSA/CUS  
2004年 11月 3日

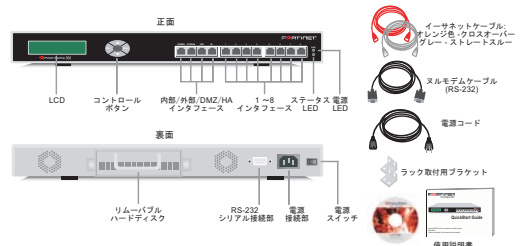
テクニカルサポートは、<http://www.fortinet.com> をご覧ください。

01-28005-0037-20041103

## 1 パッケージの内容を確認する

パッケージに次が揃っているかどうかを確認してください。

コネクタ	タイプ	スピード	プロトコル	用途
内部	RJ-45	10/100Base-T	イーサネット	内部ネットワークに接続
外部	RJ-45	10/100Base-T	イーサネット	インターネットに接続
DMZ	RJ-45	10/100Base-T	イーサネット	DMZ ネットワークに接続 (オプション)
HA	RJ-45	10/100Base-T	イーサネット	他の HA の FortiGate-500 に接続 (オプション)
1 ~ 8	RJ-45	10/100Base-T	イーサネット	その他のネットワークに接続 (オプション)
CONSOLE	DB-9	9,600 bps	RS-232 シリアル	管理用コンピュータに接続 (オプション)。コマンドラインインタフェースへのアクセスとなります。



## 2 FortiGate-500 を接続する

FortiGate-500 を、電源コンセント、内部ネットワーク、外部ネットワークに接続します。

- FortiGate-500 を安定した場所もしくは 19 インチのラックに設置します。過熱を防ぐため両側に 3.75cm のスペースを確保してください。
- 電源コードとネットワークケーブルを接続する前に、裏面の電源スイッチがオフになっていることを確認します。
- システムが作動すると「メインメニュー」の表示に変わります。

ストレートスルー イーサネットケーブルで LAN または内部ネットワーク上のスイッチに接続  
または  
クロスオーバー イーサネットケーブルで内部ネットワーク上の管理用コンピュータに接続



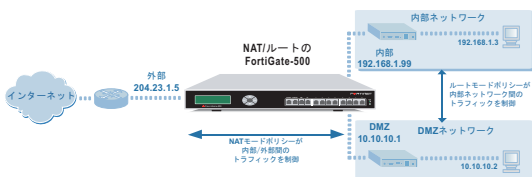
## 3 コンフィギュレーションプラン

FortiGate-500 のコンフィギュレーションを始める前に、既存のネットワークにどのようにインテグレーションしていくか、プランを立てる必要があります。コンフィギュレーションは NAT/ルートモード (デフォルト)、トランスパレントモードのどちらの動作モードを選択するかによって決定されます。

### NAT/ルートモード

NAT/ルートモードでは、FortiGate-500 は接続されているネットワークから見える状態になります。インタフェースは全て異なるサブネット上になります。ネットワークに接続するインタフェースはそれぞれ、そのネットワークで有効な IP アドレスを設定する必要があります。

FortiGate-500 をプライベートネットワークと公共ネットワークの間のゲートウェイとして使用する場合は通常、NAT/ルートモードを使用します。NAT/ルートモードをデフォルトとするコンフィギュレーションでは、FortiGate-500 はファイアウォールとして機能し、そのポリシーが FortiGate-500 を経由するコミュニケーションを管理します。ファイアウォールポリシーを設定するまでは、トラフィックは FortiGate-500 を経由できません。



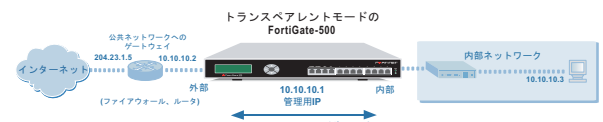
NAT/ルートモードの場合、ファイアウォールポリシーは NAT モードもしくはルートモードで作動します。NAT モードの場合は、ネットワークアドレスを変換してから IP パケットを宛先ネットワークに送りますが、ルートモードでは変換はありません。

トラフィックの管理方法、および HA、ウイルス対策、ウェブコンテンツフィルタ、スパムフィルタ、侵入防御システム (IPS)、仮想プライベート通信網 (VPN) の設定方法についての詳細は、CD-ROM に収録されている各説明書を参照してください。

### トランスパレントモード

トランスパレントモードにすると、ネットワークには FortiGate-500 が見えません。インタフェースはすべて同じサブネットに置かれます。また、管理用 IP アドレスを設定するだけでコンフィギュレーションを変更できます。

既存のファイアウォールまたはルータの後にあるプライベートネットワーク上で FortiGate-500 を使う場合は、一般的にトランスパレントモードにします。デフォルトにトランスパレントモードを設定すると FortiGate-500 はファイアウォールとして機能し、ファイアウォールポリシーを設定するまでは、トラフィックは FortiGate-500 を経由できません。



FortiGate-500 は最高 12 つのネットワークセグメントに接続することができ、その間のトラフィックを制御します。

# 4 コンフィギュレーションツールの選択

FortiGate-500 の 3 つのコンフィギュレーションツールからどれかひとつを選びます。



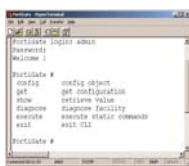
## ウェブベースマネジャー/セットアップウィザード

FortiGate ウェブベースマネジャーのセットアップウィザードが段階を追って初期設定を指示します。

管理者用パスワード、内部 / 外部 / DMZ インタフェースアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、DNS サーバアドレスを設定します。オプションとして、内部サーバを NAT/ルートモードに設定するためにセットアップウィザードを使うこともできます。

### 必要条件

- FortiGate-500 と管理用コンピュータ間のイーサネット接続
- 管理用コンピュータ上に Internet Explorer バージョン 6.0 以上



## コマンドラインインタフェース (CLI)

CLI は多彩な機能を持つ管理ツールです。

このインタフェースを使用して管理者用パスワード、インタフェースアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、DNS サーバアドレスを設定します。

高度な設定については、CD-ROM に収録されている各説明書を参照してください。

### 必要条件

- FortiGate-500 と管理用コンピュータ間に RJ-45 シリアル接続
- 管理用コンピュータ上にターミナルエミュレーション用アプリケーション (Hyper Terminal for Windows)



## コントロールボタンと LCD

FortiGate-500 の正面にあるコントロールボ

タンと LCD を使用して内部インタフェース、外部インタフェース、ポート 1(DMZ) インタフェースおよびデフォルトゲートウェイアドレスを設定することができます。他のインタフェースアドレスおよび DNS サーバアドレスの設定にはウェブベースマネジャーまたは CLI を使用します。

### 必要条件

- FortiGate-500 本体を直接操作できること

# 5 設定内容の情報をまとめる

FortiGate-500 の設定内容を記録します。NAT/ ルートモードもしくはトランスパアレントモードの設定、あるいはいずれのモードにも適用できる一般設定を記録することができます。内部 / 外部ネットワークおよびその他 3 種類のインタフェースに設定を記録するには、以下のテーブルを使います。

## NAT/ ルートモード

内部インタフェース	IP: _____
	Netmask: _____
外部インタフェース	IP: _____
	Netmask: _____
_____ インタフェース	IP: _____
	Netmask: _____
_____ インタフェース	IP: _____
	Netmask: _____
_____ インタフェース	IP: _____
	Netmask: _____

内部インタフェースの IP アドレスおよび Netmask が内部ネットワークにおいて有効であることを確認してください。

## トランスパアレントモード

管理用 IP:	IP: _____
	Netmask: _____

管理用 IP アドレスと Netmask が FortiGate-500 の管理に使用するネットワークに対して有効であることを確認してください。

## 一般設定

管理者パスワード:	
ネットワーク設定:	デフォルトゲートウェイ: _____
	プライマリ DNS サーバ: _____
	セカンダリ DNS サーバ: _____

FortiGate を経由してインターネットにアクセスする場合はデフォルトゲートウェイが必要です。

# 6 FortiGate-500 を初期設定する

- FortiGate-500 の内部インタフェースを管理用コンピュータのイーサネットポートに接続します。装置同士を直接接続する場合はクロスオーバー イーサネットケーブルを使用します。ハブまたはスイッチ経由で接続する場合は、ストレートスルー イーサネット ケーブルを使用します。

## ウェブベースマネジャーとセットアップウィザード

- 管理用コンピュータが FortiGate-500 の内部インタフェースと同じサブネットに配置されるように設定します。管理用コンピュータの IP アドレスを 192.168.1.2 に、Netmask を 255.255.255.0 にそれぞれ変更して設定します。
- FortiGate のウェブベースマネジャーにアクセスするには、Internet Explorer を起動し、https://192.168.1.99 にブラウザします。(「https://」には S が入っていますので注意してください。)
- [名前] フィールドに「admin」と入力して、[ログイン] を選択します。

## NAT / ルートモード

FortiGate-500 の初期設定にセットアップウィザードを使用する場合は、Easy Setup Wizard ボタンを選択し、プロンプトに従って Easy Setup Wizard を選択してください。

### 管理者パスワードの変更

- System > Admin > Administrators の順に選択します。
- 管理者用の Change Password を選択し、新たなパスワードを入力します。

### インタフェースの設定

- System > Network > Interface の順に選択します。
- 各インタフェースに編集アイコンを選択し、初期設定します。
- インタフェースのアドレッシングモードを設定します (詳細はオンラインヘルプを参照してください)。
  - 手動アドレッシングの場合は、インタフェースの IP アドレスと Netmask を入力してください。
  - DHCP アドレッシングの場合は、DHCP その他必要な設定を選択してください。
  - PPPoE アドレッシングの場合は、PPPoE を選択し、ユーザ名、パスワード、その他必要な設定を入力してください。

### プライマリ/セカンダリ DNS サーバの IP アドレス初期設定

- System > Network > DNS の順に選択し、プライマリ/セカンダリ DNS の IP アドレスを入力し、Apply を選択します。

### デフォルトゲートウェイの初期設定

- Router > Static の順に選択し、静的ルートの編集アイコンを選びます。
- デフォルトゲートウェイの IP アドレスをデフォルトゲートウェイに設定し、OK をクリックします。

## トランスパアレントモード

### NAT/ ルートモードからトランスパアレントモードへの変更

- System > Status の順に選び、Operation Mode の横の Change を選択して OK をクリックします。
- 管理用コンピュータの IP アドレスを 10.10.10.2 に変更し、Internet Explorer を使用して https://10.10.10.1 にブラウザします。

セットアップウィザードを使って FortiGate-500 を初期設定する場合は、Easy Setup Wizard ボタンを選択し、プロンプトに従ってください。

### 管理者パスワードの変更

- System > Admin > Administrators の順に選択します。
- 管理者用の Change Password を選択し、新たなパスワードを入力します。

### 管理用インタフェースの設定

- System > Network > Management の順に選択します。
- 管理用 IP アドレスおよび Netmask を入力します。
- 必要な場合は管理者アクセスオプションを選び、OK をクリックします。

### プライマリ/セカンダリ DNS サーバの IP アドレス設定

- System > Network > DNS の順に選択し、上記に従って登録したプライマリ/セカンダリ DNS の IP アドレスを入力し、Apply を選択します。

### デフォルトゲートウェイの設定

- System > Network > Management の順に選択します。
- デフォルトゲートウェイの IP アドレスをデフォルトゲートウェイに設定し、OK をクリックします。

注意: 内部インタフェースの IP アドレス (NAT/ ルートモードの場合) または管理用 IP アドレス (トランスパアレントモードの場合) を変更する場合は、このアドレスを使用してウェブベースマネジャーとセットアップウィザードに再接続する必要があります。また管理用コンピュータの IP アドレスを変更して新 IP アドレスと同じサブネット上に来るようになってはならない場合もあります。

## コマンドラインインタフェースを使用する

1. シリアルケーブルを使用して FortiGate Console ポートを管理用コンピュータのシリアルポートに接続します。
2. 管理用コンピュータ上でターミナル エミュレーションプログラム (HyperTerminal) を起動し、次のように設定します。ボーレート (bps) : 9600、データビット : 8、パリティ : なし、ストップビット : 1、フロー制御 : なし
3. Login: のプロンプトが表示されたら、admin と入力し、Enter を 2 回押します (パスワード不要)

### NAT/ ルートモード

1. FortiGate-500 内部インタフェースを設定します。

```
config system interface
edit internal
set mode static
set ip <intf_ip> <netmask_ip>
end
```
2. 同様に、外部インタフェースなど各インタフェースを設定します。

```
config system interface
edit external
...
```
3. プライマリ/セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

```
config system dns
set primary <dns-server_ip>
set secondary <dns-server_ip>
end
```
4. デフォルトゲートウェイを設定します。

```
config router static
edit 1
set gateway <gateway_ip>
end
```

### トランスペアレントモード

1. NAT/ ルートモードからトランスペアレントモードに変更します。

```
config system global
set opmode transparent
end
```
2. しばらく待ち、プロンプトが表示された時点で再度ログインします。
3. 管理用 IP アドレスを設定します。

```
config system manageip
set ip <mng_ip> <netmask>
end
```

DNS サーバ IP アドレスを設定します。

```
config system dns
set primary <dns-server_ip>
set secondary <dns-server_ip>
end
```
4. デフォルトルートを設定します。

```
config router static
edit 1
set gateway <gateway_ip>
end
```

## コントロールボタンと LCD を使用する

- ・ [メインメニュー] にアクセスする、メニュー項目を選択する、IP アドレス入力時に右に移動する、または変更を確認する操作には Enter キーを使用します。
- ・ [メインメニュー] 内を上下に移動する、または IP アドレスの数字を変更する操作には矢印キーを使用します。
- ・ [メインメニュー] に戻る、または IP 入力時に左に移動する操作には Esc キーを使用します。

### NAT/ ルートモード

コントロールボタンと LCD を使用して次の操作を実行します。

- ・ 内部、外部、ポート 3 インタフェースの IP アドレスと Netmask を設定する。
- ・ 外部インタフェースのデフォルトゲートウェイを設定する。

### トランスペアレントモード

コントロールボタンと LCD を使用して次の操作を実行します。

- ・ 動作モードを NAT/ ルートモードからトランスペアレントモードに変更する。
- ・ 管理用 IP アドレスと Netmask を設定する。
- ・ デフォルトゲートウェイを設定する。

**注意** : IP アドレスを入力する際、LCD ディスプレイは IP アドレス各部について常に 3 桁の数字を表示します。たとえば、IP アドレスが 192.168.100.1 の場合、LCD ディスプレイには 192.168.100.001 と表示されます。

## 7 コンフィギュレーションの完了

これで基本設定は完了。ネットワークはインターネット経由の脅威から保護されます。設定のオプションについての詳細は、オンラインヘルプもしくは CD-ROM に収録されている説明書を参照してください。

### FortiGate-500 の再設定

ネットワーク設定の変更を誤り、FortiGate-500 に接続できない場合は、再起動して接続するか、いったん工場出荷時設定に戻してから設定し直してください。

- ・ 再起動するには、**System > Maintenance > ShutDown** の順に選び、Reboot を選択します。 CLI: execute reboot
- ・ リセットするには、**System > Maintenance > ShutDown** の順に選び、Reset to factory default (工場出荷時設定に戻る) を選択します。 CLI: execute factoryreset